

創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
中間評価報告書

研究開発課題名	高輝度蛍光標識プローブを用いた二次元から三次元への薬物動態解析による創薬技術支援の基盤構築
代表機関名	国立研究開発法人国立がん研究センター
研究開発代表者名	濱田 哲暢
全研究開発期間	令和3年度 ～ 令和7年度（予定）

1. 研究開発成果（公開用）

中間報告書（下 URL）参照

<https://www.amed.go.jp/content/000120236.pdf>

2. 総合評価

- ・良い

【評価コメント】

高輝度蛍光標識プローブを用いた空間的薬物動態解析技術の構築に向けて、シーズ開発課題との対応も組み入れて、計画通りに進めている。その中で、PDX モデルにおける腫瘍内での抗体医薬品の分布評価により、抗ガン活性や薬剤デリバリーに関わる重要な可能性を示したことは興味深い。この知見を基に、同モデルでの組織学的な評価、シーズ開発、臨床での治療方針に活用されていくことを期待する。

課題間連携でのシーズ開発課題への対応も活かして、抗体以外のモダリティへの応用性も含め、汎用性がある薬物動態解析技術体制の確立を引き続き実施し、実働性のある基盤技術の構築を目指すこと。

以上